

《浦山ダム清水バイパス》

浦山ダムでは、洪水後のダム放流水の長期間におよぶ濁水放流が問題とされていました。ダムでは洪水のときに『水をためて川の水を下げる役割、ためられた水を無駄のないよう必要な量を流す役割』がある一方で、洪水のときに流れてくる『濁水』も貯めてしまい、必要な水を流す際に濁水となっていました。

この問題を軽減するためにつくられたものが、『清水（せいすい）バイパス』です。清水バイパスは、洪水のあと等において、ダムにためられた水が濁ってしまった場合でも、必要な水をダム上流の河川より取水し、ダムの下流へ供給する施設です。施設の建設にあたっては、国土交通省より、（独）水資源機構が委託され、計画・設計・工事を行いました。

清水バイパス

『清水バイパス』は、ダムに入ってくる川の水をダム上流にて取水し、貯水池を経由することなくダムからの放流口につなぐ水路です。水路は、貯水池沿いに設置された約6 kmの長さで、大きさ1 mの円型管（パイプ）となっています。

清水バイパスの仕組み

